【 146 】

氏名	河　原　　伸
学位の種類	医　学　博　士
学位授与番号	博乙第　2064　号
学位授与の日付	平成元年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	**肺小細胞癌の集学的治療に関する研究** **第1編　肺小細胞癌 limited disease 症例における胸部照射併用の意義について：無作為化比較試験による検討** **第2編　肺小細胞癌症例における予防的脳照射：無作為化比較試験による検討成績**
論文審査委員	教授　辻　孝夫　　教授　太田善介　　教授　平木祥夫

学位論文内容の要旨

肺小細胞癌の治療成績をさらに向上せしめることを目的に，2つの無作為化比較試験を行った。

第1編では病変が胸郭内に限局した（limited disease：LD）症例において，強力な化学療法に加えて胸部照射を併用することの意義を明確にするため，LD症例を無作為に二分し，化学療法単独群と胸部照射併用群の治療成績を比較検討した。その結果，奏効率，再発パターン，生存期間中央値に差は認めなかったが，長期生存例は胸部照射併用群に多く認められる傾向が示された。従って，化学療法がさらに進歩し，対象症例，照射線量，timing などについての至適条件が設定された場合には胸部照射の併用はおそらく効果的な治療法と思われた。

第2編では長期生存が期待でき，かつそれに伴う脳転移の危険性の高い完全寛解症例を対象に，無作為化比較試験により予防的脳照射（PCI）の意義を検討した。その結果，経過中の脳転移発現頻度および累積発現確率はPCI群において減少しており，PCIが脳転移の発現を完全に防止しえないまでも発現を減少させ，発現時期を遷延しうる所見を得ることができた。また，PCI群の予測2年生存率は対照群のそれと比較すると高率で，PCIの延命への寄与効果がうかがわれ，化学療法の向上により近い将来にはPCIの意義はより明確になるものと思われた。

論文審査の結果の要旨

本研究は，肺小細胞癌の集学的治療，とくに limited disease 例の胸部照射併用と予防的胸照射（ＰＣＩ）の効果について研究したもので，前者の場合には長期生存例が多くみられること，後者の場合には脳転移発現頻度と累積発現確率が減少しているなど極めて有用であったとの価値ある知見を得ている。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。